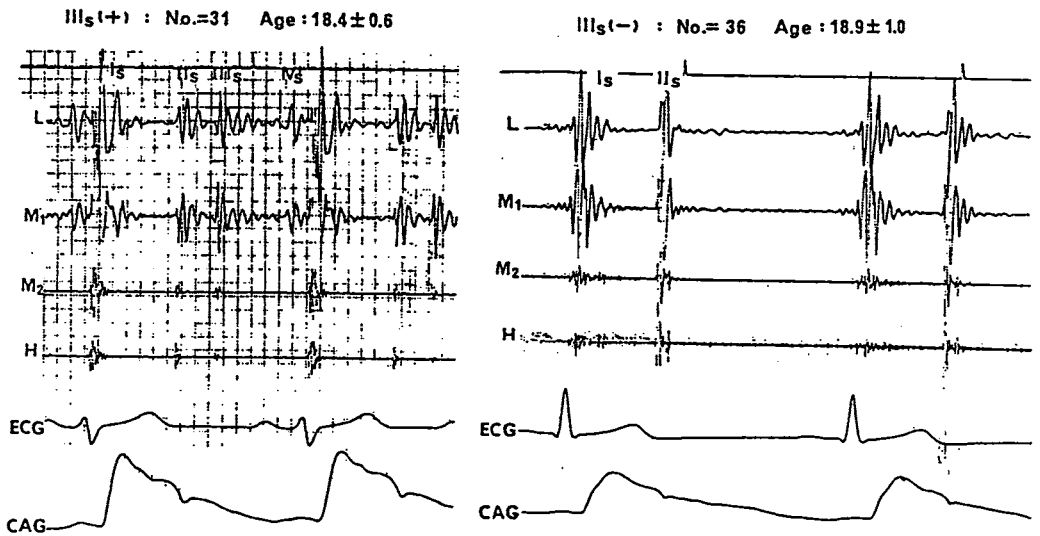


健康大学生におけるⅢ音の検討

金沢大学保健管理センター 元 田 憲
金沢大学医学部第二内科 北 義 人
金沢大学保健管理センター 赤 池 幸子 中 越 伸子 木 場 深 志
野 村 進

Ⅲ音の発生機序は弁膜説と心筋説に大別され、若年者では10～80%に出現するとされている。今回、我々は健康大学生のⅢ音について検討した。

SUBJECTS



対象および方法：図のごとく昭和59年5月の健康診断において異常を認めずⅢ音を聴取した男子大学生31名および年齢には差がなくⅢ音を聴取し得なかった男子大学生は36名であり、その体格、心電図、胸部X線、心機図について検討した。

結果：Ⅲ音(+)群とⅢ音(-)群の間には身長、体重に差は認められなかったが、肥満度はⅢ音(+)群で有意に低値であった。血圧、心胸郭比、心電図上の電位差、心機図所見には両群間に差を認められなかった。Ⅳ音がⅢ音(+)群で6名、19%、Ⅲ音(-)群で2名、6%に記録された。

機能的収縮期雑音もⅢ音(+)群で22名、71%、Ⅲ音(-)群で11名、31%に記録された。Ⅲ音は急速流入波と一致して現れるものが大半であったが、少数例に不一致を認めた。また、Ⅲ音の大きさと急速流入波の大きさにも対応は認められなかった。

結論：Ⅲ音は細身の体型の者に聴取されやすく、同時にⅣ音および機能的収縮期雑音を伴いやすかったが、心機能に差はなく、発生機序としては心筋説を示唆しやすいものであった。